

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 15 日現在

機関番号：32689

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2017

課題番号：15K12899

研究課題名(和文)「私らしく」産出できるようになるためのウェブ型日本語教材の開発

研究課題名(英文) Development of Japanese-language teaching materials for expressing ourselves

研究代表者

小林 ミナ (KOBAYASHI, MINA)

早稲田大学・国際学院(日本語教育研究科)・教授

研究者番号：70252286

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：文字コミュニケーションについては、Facebook、LINE、PCメール、日本語学習者の作文を対象に、「文章構造」「言語項目の選択に関わる状況要因」「エモティコンの使用実態、印象評定」「パラ言語」といった観点から分析、考察した。

音声コミュニケーションについては、「海外の大学で日本語を学んでいる学習者52名(中級27名、上級25名)が、協定校である日本国内の大学の日本人大学生に対して行った自己紹介の動画」を対象に、印象評定を行った。

上述の結果を踏まえて、日本語教材、および、日本語教育実践の内容を試作、検討した。

研究成果の概要(英文)：With regard to character communication, we will discuss sentences such as "text structure", "factor factors related to language item selection", "actual usage of emoticon, impression evaluation", "para language" such as Facebook, LINE, PC mail, From the viewpoint, it analyzed and considered.

About voice communication, "Self-introductions made by 52 Japanese students learning Japanese at overseas universities (27 middle level, 25 advanced level) to Japanese college students in universities in Japan which is the agreement school Impression assessment was conducted for the "animation of".

Based on the above results, we tried and examined the content of Japanese teaching materials and Japanese language education practice.

研究分野：日本語教育

キーワード：教材 カリキュラム 話す 書く 私らしさ 教育実践

協定校の学生に対して、印象評価に関するインタビューを行った。その結果、学習者自身の自己評価と協定校の学生の評価には相違が見られた。さらに、その評価には、非言語要素やコミュニケーションストラテジーなどが大きく関わっていることがわかった。

分析 G では、上述の結果を踏まえて、日本語教材、および、日本語教育実践の内容を試作、検討した。日本語教材としては、自習を前提とするウェブ教材として、次のようなコンテンツを書けるようになるためのレッスンを作成した。「待ち合わせに遅れることを伝える LINE のトーク」「就職活動で最初に提出するエントリーシート」「就職活動で会社説明会を欠席することを伝えるメール」。また、理論的な側面については、外国語・日本語教授法の歴史について、1970 年代に始まったコミュニケーション・アプローチ以降の流れを総括し、そこで提唱されている類似のアプローチ(機能シラバス、場面シラバス、話題シラバスなど)と、本研究のアプローチの差異を記述することを試みた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 11 件)

- ① 中井好男・船橋瑞貴・副田恵理子・向井裕樹, LINE での日本語母語話者からの誘いを非母語話者はどう断っているか—「再誘い」を誘発する要因とその背景にある意識—, 2018, 国立国語研究所論集, 14, 査読有, 169-192
- ② 伊澤明香・宮崎幸江・松田真希子, 複言語・複文化社会ブラジルにおける日系の子どもの日本語能力の多様性, 南米日本語教育シンポジウム 2017: 南米における日本語教育のポテンシャル, 査読有, 133-147
- ③ 宇佐美洋・柳田直美, 「参加型授業」に対する抵抗感はどこから来るのか: 学習観の多様性に向き合うための事例研究, 2017, カナダ日本語教育振興会 2017 年度大会プロシーディングズ, 査読有, 262-271
- ④ 小林ミナ, 複言語・複文化時代の日本語教育における日本語教師養成, 2016, 複言語・複文化時代の日本語教育, 査読無, 135-162 (国際共著)
- ⑤ 小林ミナ, 「状況から出発する」アプローチ, 2016, 早稲田日本語教育学, 22, 査読無, 1-13
- ⑥ 松田真希子, 理工系留学生のための文字・語彙シラバス, ニーズを踏まえた語彙シラバス, 査読無, 139-158
- ⑦ 松田真希子, Web 日本語 N グラムコーパス分析に基づく深層格の偏りの検証, 2016, 計量国語学, 30(6), 査読有,

344-356

- ⑧ 小嶋香織・松田真希子, 日本語母語話者コーパスにおける「わけにはいかない」の用法: 従来の日本語教育文法との比較から, 2016, 金沢大学留学生センター紀要, 19, 査読有, 11-22
- ⑨ 鈴木美奈, 松田真希子, コーパスから見た日本語母語話者と日本語学習者における「～ておく(とく)」の使用状況, 2016, 金沢大学留学生センター紀要, 19, 査読有, 23-36
- ⑩ 小林ミナ・藤井清美・柳田直美, 会話教材におけるローマ字表記-英語/イタリア語の母語話者を事例として-, 2015, 早稲田日本語教育学, 査読有, 1-19 (国際共著)
- ⑪ 松田真希子・小林ミナ, 「私らしい」日本語の産出支援のための一考察—Facebook 誕生日メッセージ調査に基づく分析—, 2015, 早稲田日本語教育学, 査読有, 統計数理研究所共同研究レポート 358, 言語テキストと学習者特性の量的分析, 査読有, 42-56 (国際共著)

〔学会発表〕(計 18 件)

- ① 小林ミナ, 「状況から出発する」日本語授業, 2018, 公益財団法人松戸市国際交流協会日本語教育講演会(招待講演)
- ② 副田恵理子・大和えり子, 「書く」言語的スキルとは—LINE による待ち合わせ場面の分析から, 2018, 「具体的な状況設定」から出発する日本語ライティング教材の開発」公開研究会(招待講演)
- ③ 向井裕樹, 松田真希子, 複言語・複文化社会における日本語使用者のライティングプロセス—サンパウロとブラジル在住の日系人を例にして—, 2018, 「具体的な状況設定」から出発する日本語ライティング教材の開発」公開研究会(招待講演)
- ④ 柳田直美, 〈やさしい日本語〉実践講座, 2018, 学習院女子大学主催シンポジウム〈やさしい日本語〉と多文化共生,(招待講演)
- ⑤ 小林ミナ, 「文法のためのコミュニケーション」から「コミュニケーションのための文法」へ, 2017, アクラス研修(招待講演)
- ⑥ 藤井清美・柳田直美, 自己紹介でわたしらしさ: 日本語学習者の自己評価より, 2017, 第 21 回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム(国際学会)
- ⑦ 柳田直美, 非母語話者は母語話者の「説明」をどのように評価するか—評価に影響を与える観点の分析—, 2017, 2017 年度日本語教育学会春季大会
- ⑧ 柳田直美, 日本人学生を対象とした多文化共生対応スキル養成プログラムの実践—「やさしい日本語」を用いた多文化共生対応のための言語スキルの養成—,

2017, 2017 年度異文化間教育学会第 38 回大会

- ⑨ 小林ミナ, なぜ「具体的な状況設定」から出発するのか, 2017, 平成 28 年度 NINJAL 共同研究発表会・シンポジウム(招待講演)
- ⑩ 松田真希子, 「具体的な状況設定」に基づく産出スキルとはどのようなものか—SNS に投稿された料理写真のコメント分析を例に一, 2017, 平成 28 年度 NINJAL 共同研究発表会・シンポジウム
- ⑪ 中井好男・船橋瑞貴・副田恵理子・向井裕樹, 非対面接触場面における誘いへの断り表現とその問題点—日本語母語話者と非母語話者による LINE のやりとりの分析—, 2016, 2016 年日本語教育国際研究大会(国際学会)
- ⑫ 松田佳子・小林ミナ・大和えり子・伊藤晶子, 実態調査に基づいた書けるようになるための教材開発, 2016, 2016 年日本語教育国際研究大会(国際学会)
- ⑬ 小林ミナ・藤井清美・柳田直美, イタリア語話者のための会話教材における発音表示, 2015, 第 19 回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム(国際学会)
- ⑭ 小林ミナ, 日本語は誰のものか, 2015, 国際語としての日本語に関する国際シンポジウム(EJHIB2015)・第 3 回日本研究大学院学会(招待講演), (国際学会)
- ⑮ 小林ミナ, 文法のためのコミュニケーションから、コミュニケーションのための文法へ, 2015, 第 1 回ハンガリー日本語教育シンポジウム(招待講演),
- ⑯ 小林ミナ, 「私の日本語」を獲得するための教室活動:学習者と一緒に「文法」を作る, 2017, 2016 年度ドイツ VHS 日本語講師の会バイエルン州支部研修会(招待講演)
- ⑰ 小林ミナ, 「私の日本語」を獲得するための教室活動:学習者と一緒に「文法」を作る, 2016, ベルギー日本語教師会(招待講演)
- ⑱ 小林ミナ, 「文法のためのコミュニケーション」から「コミュニケーションのための文法」へ, 2016, 国際交流基金ケルン日本文化会館日本語教師研修会(招待講演)

〔図書〕(計 1 件)

- ① 本田弘之, 岩田一成, 倉林秀男, 街のサインを点検する—外国人にはどう見えるか—, 大修館書店, 204

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 0 件)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小林ミナ (KOBAYASHI, Mina)

早稲田大学・国際学術院 (日本語教育研究科)・教授

研究者番号: 70252286

(2) 研究分担者

本田弘之 (HONDA, Hiroyuki)

北陸先端科学技術大学院大学・グローバルコミュニケーションセンター・教授

研究者番号: 70286433

副田恵理子 (SOEDA, Eriko)

藤女子大学・文学部・准教授

研究者番号: 90433416

藤井清美 (FUJII, Kiyomi)

金沢工業大学・基礎教育部・准教授

研究者番号: 60596633

(3) 連携研究者

柳田直美 (YANAGIDA, Naomi)

一橋大学・国際センター・専任講師

研究者番号: 60635291

松田真希子 (MATSUDA, Makiko)

金沢大学・国際機構・准教授

研究者番号: 10361932